

この全世界の整理救済を武甕槌神の言向け和はしと云ふ。
すなわち「禊祓」である。



これに対して錦旗を奉じて、最初に立ち上がった者が我々第三文明会である。この時世界維新の錦の御旗となるものは救世主の旗印であって、これを天璽と云ふ。すなわち三種の神器であり、「神即言葉」である道理であり、「教菩薩法、仏所護念」であり、そして是等色々の名で呼ばれて来た所の実体は朝廷と云はれる言霊五十音布斗麻邇八咫鏡である。この法を掲げて全世界を言向け和はす者が世界の主の主、王の王であるメシアの神軍である。我々が人類の魂の憑り代として齎き建てる（衝き立てる）布斗麻邇は如何なる主義でも思想でもない。如何なる権力にも従属しない人類の「神」そのものである生命の先天の発露である原理である。「生命は糧より勝り」、生命は物質より勝るものであることは既にイエスが説いてくれた。更にその生命の道理は如何なる主義、思想、政策、信仰よりも優れて尊い。

現在の世界のすべての政府、政治、思想、宗教、企業のグループの悉くは三千年来の生存競争と権力思想の中に蠢動を続けて来た旧徳川幕府方に属し、従来の信仰団体としてのセクトである限り仏教もキリスト教、ユダヤ教、回教もこの仲間に入っている。すべてこれらの精神構造を天津金木と云ふ。こうした全世界の即今の現実に対して立ち上がった救世の神軍は現在極めて微々たる者であるが、天壤無窮、万世一系である人間の生命の先天の公理に立脚した文明の審判者であり、新しい世界の指導者、第三の文明の経営者である。

救世主の神軍は明治維新の勤皇方に当たるが、しかし当時のように薩長という新興の権力が幕府方を朝敵と目したような関係には立たない。「念仏衆生、撰取不捨」というが、その救世主の観念的影像である阿弥陀如来の四十八の本願力である四十八の言霊の操作によって、世界のす

べての思想を整理し総合して全局に生命あらしめるために戦うのである。この全世界の整理救済を武甕槌神の言向け和はしと云ふ。すなわち「禊祓」である。

既に第三文明会から布斗麻邇の入門書としての「言霊百神」と、世界の初初より最後の審判に至るまでの人類界の因縁果報の筋道経過、すなわち天津日嗣の世界経緯の軌跡としての生命歴史「第三文明への通路」が出版公開されている。この二書を緒いて発心して、みずからの三千年来の像法末法時代の、既に生命の役に立たなくなった自己の思想を、初歩の段階に於いては仏、儒、耶、回教等の古代宗教によって、そしてより高度の段階に於いては直接言霊布斗麻邇によって禊祓して、その言霊を執って決然立ち上がって、救世の神軍に参加することをお勧めして止まない。（昭和四十四年九月、第三文明研究四九号）